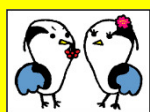


～学びと育ちの連続性～

## 浦幌小中一貫CS便り



平成 30 年 2 月 27 日 (NO.103)

浦幌町教育委員会  
浦幌町教育研究所

## CS拡大委員会

■平成 30 年 2 月 1 日(木)、第 3 回浦幌町小中一貫 CS 委員会(拡大委員会)が行われ、年間取組の成果と課題について協議しました。後半、場所を変えての懇親・交流会でも、各学園が取り組んだ多様な実践に話題

が集まり、拡大 CS 委員の皆さんの熱っぽい議論が続きました。これぞまさしく CS 導入の成果です。なお、新年度の方向性を次のように確認しました。

### (平成 30 年度小中一貫 CS の方向性)

平成 29 年 3 月、地教行法の一部改正により、「地域とともにある学校」に転換していくため、学校運営協議会を設置することが努力義務として示されました。学校と地域の持続可能な連携・協働の仕組みづくりは、子どもたちの育ちにとどまらず、大人たちの学びの拠点を創造し、地域の絆を強め、人づくり・地域づくりの担い手を育てます。

「誰かが何とかしてくれる」という時代ではありません。私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、連携・協働して子どもたちを育てる仕組みづくりを進め、豊かな学びを保証することが求められています。

平成 30 年度は、小中一貫 CS の取組が 9 年計画の第 3 期「改善」のステージに入ります。PDCA サイクルを確立し、学園評価に基づいた改善を着実に進めていく必要があります。

地域課題や地域資源を生かした学校・地域の連携・協働の在り方を探るとともに、特に確かな学力をもとにした「生きる力」の育成に取り組んでいきます。

引き続き木幡先生等の指導のもと、アクションプランに基づいた学園評価を生かし、「スマホやゲーム機使用」のルール宣言に基づいて「基本的な生活習慣及び家庭学習の定着と学力・体力の向上」に重点を置いた取組をさらに深掘りしていきます。

学校においては、基礎・基本の確実な習得を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業を見直し、家庭と連携・協働して児童生徒一人ひとりがわかる授業の展開に努めます。

「学園評価委員会」の位置付けを明確にして機能させながら、4 年目となる「CS を基盤とした小中一貫教育」の取組を力強く進めていきます。



拡大CS委員会で1年間の成果と課題を協議しました。